

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	ジェンドラルスディルマン 大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Indonesian Local Food Technology	TPP1535	2	課題が多く、他と比べると大変だった
Processing Technology of Coconut Product	TPP1536	2	復習をしっかりとる必要がある
Food Packaging	TPP1537	2	プレゼンテーションなどがあり、積極的な発言が求められていた
Indonesian Food Fermentation Technology	TPP1538	2	しっかり予習・復習をすれば大丈夫

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金
07:00～ 08:40					
08:50～ 10:30		Processing technology of coconut product	Food packaging		
10:40～ 12:20		Indonesia local food technology	Indonesian food fermentation technology		
集中講 義等					

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
その他特筆すべきこと（任意記述）： 					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他			○		
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加				○	
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか		○			
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：病院等に行く時は付き添うので必ず事前に連絡をしてほしいと言っていた					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

大学では英語開講されている4科目を受講した。

4科目とも食品に関わるもので、そのうち3科目はインドネシアの食品を題材にしていた。

授業は座学がメインだったがプレゼンテーションやフィールドワークも行われた。

インドネシアの食品についての3科目うち processing technology of coconut product では世界生産量一位でインドネシアの主要な農作物であるココナツ生産、加工工程や課題を学んだ。Indonesian local food technology ではインドネシアの伝統的な食品(主にスナック)の特徴、生産方法や生産者の多くを占める小規模事業について教わった。Indonesian fermentation food technology ではインドネシアの伝統食品の中でも特に発酵食品について学んだ。これら3つは重なる部分多くあった

packaging の授業はインドネシアの伝統的な包装の他にも現代でよく使われる包装素材についても学んだ。この授業は他の3つとは関わりが少なかったが留学前に茨城大学で受けた授業内容と重なる部分もあったので、より理解深まると思う。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

同じ単元でも先生が途中で変わることがある(元々何人かの先生が担当されていた)ので、授業中に疑問点を解消した方がよいと思った。授業後に整理して後日改めて質問するのは難しいと思う。口頭で質問できるのが理想だが、発音の問題で伝わらないこともあったが、そこで質問を辞めず、筆記でもいいので伝えて答えをもらうことが必要だと思う。

また、授業のスライドが配布されないと考えていたら、テスト直前に配布されたことがあったので事前に確認するべきだったと反省している。事前配布された際には分からない単語を調べておいて、授業は確認の気持ちで臨んでいたら、もっと理解が深まったと思う。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

その文化に関する知識が増えた。特にインドネシアはイスラム教徒が多いのでそれによってどのような食文化や生活になるのか実際に目にするととても興味深かった。時間の感覚も違うのか、待つことが当たり前だったので、その遅れる時間も考えて行動できるようになった。もし、日本に彼らを招く時何に気を付けなくてはいけないか、知る、考えるきっかけを得られた。

また、違う文化・価値観に触れることが自国について考えるきっかけにもなった。日本で過ごしている時は気にならなかったことが、質問を受けたり、違うところを発見したりすることで、そういえばなぜこうなのか考えるようになった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

たった4ヶ月の留学だったが様々な文化や価値観に触れることができた。この経験を視野を広く持つことに繋げたい。4ヶ月過ごすなかで全ての異なる部分に共感できたわけではないが、それぞれに素晴らしい部分があることが分かった。一面を見て決めつけたり、既存の価値・風習に固執したりするのではなく、まずは受け入れ考えてみる。これは海外で活動する時だけではなく、日本人同士で働く時も円滑なコミュニケーションに活かせると思う。

また、生活習慣や言葉が違う海外で暮らしたことで精神的に強くなったと思う。自分から質問したり、なんとかコミュニケーションをとろうとしたりした経験を大変なことがあっても諦めない根気強さとして活かしていきたい。また、挑戦してみる積極性に繋がれたらいいなと思っている。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

受講する人数が少数だったこともあり、先生との距離が近く質問がしやすい雰囲気があった。授業前に近くのおすすめの食べ物や場所を教えてもらうこともあり、とても気にかけてもらっていたと思う。また、茨城大学との連絡を担当している先生は定期的に面談をする時間を設けて、何かこまったことはないか、授業についていけているか話を聞いてくださった。

農学部で留学生が私達だけだったので色々な人に手厚く対応してもらえた。特にサポートしてくれた生徒は授業中に分からない部分を補足説明してくれたり、こちらの英語の質問をインドネシア語にして先生に伝えてくれたりした。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

他の大学と比べると受ける授業の数が少ないので、比較的自由な時間が多いと思う。その時間を使って勉強以外の経験をしてほしい。また、大学外では英語がほとんど通じないので行く前にインドネシア語の勉強をすることを勧める。また、些細なことでも相談することも必要だと思う。例えば、ここに行きたいけどどう行けばいいか、など不安でためらっているよりは学生に聞いてみる方がいい。

私達が受けるのは留学生用の英語開講の授業で通常授業と違うので時間割通りに開講されないことが多い。決まるのも直前なので、平日に予定を入れたい場合は先に伝えておいた方がよい。（おそらくその日付・時間帯は避けてもらえる）

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	ジェンデラル・スディルマン大学	所属学部等	生物学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Special Course I (Indonesian Local Food technology)	TPP1535	2	レポートが大変。しかしインドネシアの郷土料理を扱っているので食べながら勉強するといい。
Special Course II (Processing Technology of Coconut Product)	Tpp1536	2	復習が大事。
Special Course III (Food packaging)	TPP1537	2	復習が大事。内容が食品保蔵学に似ている。
Special Course IV (Indonesian Food Fermentation Technology)	TPP1538	2	復習が大事。しかし発酵手順等が日本と似ている。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00							
08:00		8:40~10:20 Processing Technology of Coconut Product	8:40~10:20 Food packaging				
09:00							
10:00							
11:00			10:30~12:10 Indonesian Food Fermentation Technology				
12:00							
13:00			13:00~14:40 Indonesian Local Food Technology				
14:00							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ① 日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ① わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた	○				
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ① 計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：授業に関しては、現地のインドネシア人の生徒を優先しているの で、留学生の授業は後回しにされることが多いように感じられた。場合によっては、その日当日までス ケジュールがわからない、あるいはなくなることもある。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ① 日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	○				
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ① 非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）	○				
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p>					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

ジェンデラル・スディルマン大学では、授業は留学生用に特別コースを設けられ、そのコースの4つの授業を履修した。

Processing technology of coconut product の授業では、主に東南アジアで人々と密接にかかわっているココナッツの食産業について詳しく学んだ。

Indonesian local food technology では、インドネシアの様々な伝統料理について広く学び、その食品の製造方法などについて、実際に現地に赴き、見学させていただいた。

Food Packaging では、主にインドネシア及び世界の食品における包装・保蔵についての技術や仕組みを学んだ。また、インドネシアの食品表示についての法律についても学んだ。

Indonesian food fermentation では、インドネシアの伝統的な料理である tempe などをはじめとした発酵食品及びその技術について学んだ。

ほかにも、フィールドトリップに参加し、実際に生で食品を製造しているのを見学し、実食させていただいた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業を履修する際、まずは IRO と呼ばれる留学国際課に行き、ITAS の登録や学生番号、履修登録を行った。その後、チラチャプの移民センターに ITAS の申請を行った。これらは現地のバディや先生と協力して行う必要がある。

また、図書館といった設備を使う際には、使用時に入館登録をする必要があるのでバディや先生から教わる必要がある。

先述したが、授業は基本現地の学生が優先されるので、多忙な先生の授業ではスケジュールを把握しにくく、授業が延期・中止されることもあるので、早起きや予定を空けておく必要がある。また、フィールドトリップや、プレゼンテーションが週末やテスト後に畳みかける場合が多いので、注意が必要だった。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアはムスリムの国であったため、宗教の違いが非常に興味深かった。服装や食事だけでなく、礼儀作法やタブーとされること(食事等)、全てが教科書だけでは学べないことであり、自身にとって非常に刺激的なものであった。特に、人との関わりにおいてそれは顕著に思えた。インドネシア人は皆親切に他人に接し、そして勤勉にも思えた。しかし、日本人は皆人見知りで、社交性ではなく、むしろ人見知りで消極的である人のほうが多い。

この留学を経て、自分は少し積極的に行動できるようになったと感じている。また、自分に足りない行動力や、後回しにする欠点に気が付くことができてよかった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

今回の留学で、私は物事の考え方や、積極性、根気強さ、そして英語力が身についたと感じている。インドネシアというイスラム教の国に滞在し、今までは平面でしか考えていなかった考えが立体的に別の視点で俯瞰できたと感じた。特に、グループワークや、日々の生活において、現地の人と対話できたのは非常に素晴らしい経験を行えたと感じている。また、積極性に関しては、日々の生活1つ1つが挑戦であったため、常に新しいことに挑戦し続けるチャレンジ精神を身に着けることができたと感じている。最後に英語力だが、今までは翻訳アプリで翻訳を行っていたことが多かったが、現地の学生や人々と会話することで、可能な限り自分の英語で会話を試みた。また、他人が会話上で使っていた熟語などをメモし、自分でも使えるように練習し、ものにした。

そして、今回の留学で自信を得ることができてよかった。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

特に良かった点として、関わってくれた全ての人々が親切だった点である。友人、生徒、先生、ホームステイ先のファミリーなど、自分は関わる全ての人に助けられ、そして親切にしてもらった。自分の体調が悪い時、すぐに駆け付けて心配してくれることや、一緒に楽しい時間を過ごしてくれたこと、全てが感動的でうれしかった。そして、今回の留学で別れのつらさも経験できてよかった。日本のように、またすぐに会える関係ではなく会えるかはわからないが、本当に一期一会の出会いができてよかった。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

留学に行くことは非常に未知で、全てのことが挑戦であり怖いかもしれません。しかし、恐れをなしてホームステイ先でひきこもるのではなく、仲間やバディと協力して毎日を挑戦してみてください。日本にいればわからないことが沢山あり、刺激的な毎日を過ごすことができます。

本当につらいことがあれば、日本の家族や友人に電話でお話を聞いてもらうことや、インドネシアにある日本食をたべて乗り切りましょう！

本当にインドネシアでどうすれば分からないとき、mantap!(大丈夫)、bismillah(何かをする前に言う)、alhamdulillah(何かした後には言う)、terima kasih(ありがとう)といえれば何とかかなりです。

使ってほしくないですが、最悪翻訳を使えば何とかかなりです。

最後に、単位と命とパスポートさえあれば大丈夫です。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）

